

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ブライダル概論 Introduction to Bridal Business		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	ホテル・ブライダルユニット(儀礼服飾とは異なった内容で開講)	全学生2年生対象
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
観光ビジネス実務総論				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
ホテル業概論				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
伊藤 優子	授業中に指示します	水曜日、木曜日		授業中に指示します
授業の概要				
<p>婚礼は人生最大のお祝いの儀式として、一般に慣習化してきたものである。最近ではブライダル産業の規模も拡大し、多様化している。婚礼の定義、歴史、ブライダル関連産業、ブライダルサービスなどブライダルに関わる内容を全般的に学んでいく。</p>				
授業の目標				
<p>①ブライダルの定義を理解できるようにする。②ブライダルの歴史、各国の婚礼事情を理解できるようにする。③婚礼スタイルにはさまざまなものがあることを把握し、婚礼スタイルの特徴を理解できるようにする。④ブライダル関連産業など基礎的な知識を習得することができるようにする。⑤ウエディングプランナーとは何かを把握することで、ブライダル業界の現状を理解することができるようにする。⑥ブライダルの付帯サービスの理解を深めることができるようにする。</p>				
授業の方法				
<p>教科書を使用し、講義形式で進めていく。またパワーポイントや映像を活用することで、実践的にブライダル全般を理解できるようにする。</p>				
学習の成果(学習成果)				
<p>①社会の動きを把握し、ブライダルの現状を自ら学ぶことができる。②ブライダル産業では、幅広い知識が求められることを自ら学び、ブライダルに必要なとされる基礎知識を構築することができる。③ブライダルに関わる産業がブライダルに直接関わるものだけではないことを自ら学ぶことができる。④婚礼スタイルが多様化しており、ウエディングプランナーの仕事に应用能力が必要とされることを自ら学ぶことができる。⑤ブライダル業界は社会の情勢によって大きく変化し、華やかな部分は少なく、厳しい業界であることを自ら学ぶことで、学生自身が就職する際に中途半端な気持ちで仕事に就かないよう自立した学習をすることができる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ブライダルの定義			
第2回目	社会の情勢 ブライダルの動き			
第3回目	ブライダル業界の現状			
第4回目	求められるウエディング アンケートを基にして			
第5回目	ブライダルのスタイル			
第6回目	キリスト教式・人前式・神前式・仏前式			

第7回目	ブライダル産業		
第8回目	ウエディングに関わる仕事		
第9回目	ウエディング・プランナー・ブライダルコーディネーター		
第10回目	トラブル・クレームの事例		
第11回目	披露宴の演出		
第12回目	付帯サービス		
第13回目	オリジナルウエディング		
第14回目	海外ウエディング		
第15回目	ブライダル産業のまとめ		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度		30%	授業に集中し、ノートをとっている。不明なことがあれば積極的に質問する。指名されたら自分の意見を述べるなどが評価の対象となる。S評価の基準：上記参加態度を全て満たす上位トップグループ。
レポート		20%	ブライダル産業について課題を出す予定(実施日時は、授業中に指示します)。Sのレポートの評価：課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。
調査報告書			
小テスト			
試験		50%	社会情勢と取り巻くブライダル業界や今後のブライダルの動向を問う。またブライダルのスタイルや定義、ブライダル産業について理解度を図る(実施日時は、授業中に指示します)。S評価の基準：S=90-100
発表内容(態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
ブライダル概論(JTB総合研究所)			
履修上の留意点・ルール			
遅刻厳禁。私語はつつしむこと。授業途中で無断で退出厳禁。携帯電話使用禁止。飲食厳禁			